

# 間人分校キャリア教育だより

平成24年9月 京都府立網野高等学校間人分校



## 間人分校の教育理念

校長 高橋 弘

間人分校は昭和23年9月1日の設置以来、64年目を迎えました。卒業生は、丹後はもちろんのこと、日本全国で活躍されています。

間人分校の特色は、4年間の学びのスパンと少人数授業のゆとりのある環境で、個に応じた学びができることにあります。その利点を大いに活用しながら、学校経営方針にも掲げましたが、①社会性、道徳性を高めるとともに生徒の学ぶ意欲を向上させる。②基礎基本の徹底による学力の定着を図り希望進路を実現させる。③特別活動、部活動、ボランティア活動等を通じて心身の調和の取れた人間を育成する。この三つを学校経営の大きな柱として、教職員一同、生徒を育てています。

今後も、保護者、地域の皆様、そして各関係機関との連携を大切にしながら、取組を推進していきます。生徒諸君が、この間人分校での学びを通して、自分は、4年間やり遂げたんだという充実感と自信を持ち、さらに未来に希望を持って巣立っていけるよう心より願っています。

### 「間人分校のキャリア教育の概要」

進路指導部長・理科 狩野清貴

生徒達はやがては間人分校を巣立ち、次の進路を選んでいくことになります。就職や進学をする際に、給料が良いとか、入りやすいとかだけで選択してほしくはありません。自分にはどういう力があるのか、苦手なことは何なのか、何になりたいのか、将来はどこで生活をしたいのか、そうしたことをじっくり考えて、判断することが大切です。このように、自分の将来の生活や進路を考え、そのために行動をし、判断する力を養うことがキャリア教育です。

間人分校は学年毎に目標を設定し、四年間を見通したキャリア教育を行っています。

- 1年 基礎学力の定着を図り、自己理解を深める。
- 2年 マナー指導を行い、職場見学を実施することで進路への関心を高める。
- 3年 インターンシップ（就労体験や職場体験等）を行い、進路への意識を高める。
- 4年 進路実現に向けての取組を行い、社会人へ向けての知識と意識を向上させる。

学校生活の様々な場面において、言葉遣い、髪の毛の色、ネクタイやリボンのことなど、細かな点まで指導しています。卒業後も、変化しつつある社会の中でしっかり生活していくことを願っています。今後も、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

### 「ふりスタと間人式検定」

4年担任・数学科 木下 諒

学習に対して苦手意識を持つ生徒は少なくありません。「学習方法がわからない」「やっても、どうせできない」。そうした生徒の学力を向上させるために、間人分校では「基礎学力の定着」を重点目標とし、「ふりスタ（振り返り学習）」と「間人式検定」の2つの取組を進めています。

1年生では、1学期に実技科目を除くすべての科目の授業で、小・中学校のふりスタに取り組んでいます。また、「総合的な学習の時間」を活用し、国語、数学、英語の間人式検定を実施しています。直前1週間分の授業内容をプリントにまとめ、クラス全体で復習を行い知識の定着を図ります。生徒の意欲向上のため、プリントの提出点とテストの結果を総合的に評価し、合格点に達すれば「マイスター」として認定しています。

もちろん1年生だけでなく全学年で振り返りを大切に、内容の定着を確認しながら授業を進め、着実な学力の向上をめざしています。時間をかけて繰り返すことで、少しずつ学習内容の定着が見られます。今後も、すべての生徒の学力向上をめざし取組を加速させます。

### 「学校全体で取り組むユニバーサルデザイン化」

教務部長・地歴公民科 村野文啓

#### ユニバーサルデザインとは？

「文章を読むことが苦手」とか「計算が苦手」など、授業や学校生活で様々な「困り感」をもった生徒がいます。その原因は様々ですが、「困っている」ということは共通です。教師側がその困り感を把握し、少しでもそれを軽減すること、授業等がスムーズに受けられるように工夫をし、改善につなげていくことが必要となります。その際に個別的な対応だけでなく、個々のニーズ（困り感）に応じた配慮・支援を可能にする学級づくり、授業づくりの取組を進めること ①支援が必要な生徒には「ないと困る」支援であり、②どの生徒にも「あると便利」な支援を増やすこと それが学校のユニバーサルデザイン化の考え方です。

#### どのようにユニバーサルデザイン化をするか

「視覚化」「構造化」「協働化」を三つの柱にして、授業改善を進めていますが、実は、ユニバーサルデザイン化の前提条件としてとても重要なことがあります。それは、秩序があり安全な、そして「ぶれない」学級づくりです。この基礎が出来ないと「授業づくり」も実現しないのです。教科担当だけでなく、学校全体でユニバーサルデザイン化に取り組むことが最も効果的な方法です。今年度は授業だけでなく、学校の様々な場面でのユニバーサルデザイン化をスタートしています。

### 「つながる力向上プログラム」

1年担任・国語科 勝山鉄矢

間人分校の新たな挑戦「つながる力向上プログラム」は、社会生活に欠かせない総合的な知識・技能を身につけさせることを目標としています。今年度から1年生を中心に実施しており、身近な人や環境（社会）と「つながる力・コミュニケーション力」の育成をめざしています。具体的には、「総合的な学習の時間」を活用してソーシャルスキルトレーニングに取り組んでおり、1学期は、敬語や自己紹介スピーチ、また感情語（「うれしい」「悲しい」など）を用いて自他の気持ちを理解する活動、体を動かすゲームをしながら協力・協同する姿勢を身につけさせる活動を行いました。さらに、先進的な取組（学校設定科目「演劇表現」）を実践している愛知県立刈谷東高等学校の兵藤友彦教諭を講師として招き、研修を行うなどして内容のレベルアップを図っています。

「つながる力」は教育活動全体を通して培われるものであり、すぐに効果が表れるようなものではないと思います。今後は文化祭の取組などホームルーム活動を効果的に活用しながら、じっくりと伸ばしていきたいと考えています。クラスメイトや教職員、家族、そして地域の方々との円滑な関わりがもてるような能力を育ててほしいと願っています。

### 「ALTとの交流」

3年担任・英語科 行待 香

間人分校には、毎月一回 ALT（外国語指導助手）であるサマンサ先生がやって来ます。一ヶ月にたった一度しかないので、今年度は来られる日には全ての学年の授業に来てもらうことにしました。少しずつでも良いので生の英語を聞いて、英語を使う事に慣れてほしいと思っています。さらに、積極的に異文化に興味を持つきっかけになればと願っています。その他今年度は放課後も残ってもらい、サマンサ先生と交流をする場を設けており、毎回いろんな学年の生徒達が参加しています。英語で交流することは難しいようですが、会話が通じるとうれしそうな表情が見られます。興味のある事柄から始めて、少しずつ英語が話せるようにな

れば素晴らしいことだと思います。

一学期には授業中に七夕の願い事の短冊を英語で作成しました。放課後の交流会では七夕飾りを一緒に作りました。これからもハロウィンやクリスマスなどの楽しい行事を取り上げていきたいと思っています。また、放課後に映画鑑賞会や外国の料理を作るなどサマンサ先生との活動を大切にしたいと思っています。



### 「自立の促進・スモールステップの生徒指導」

生徒指導部長・保健体育科 岡下宏行

「教室へ帰れ!」「座っとれ!」「黙れ!」「言うことを聞け!」抑えつけるような口調の教師に対して、生徒たちはプイと横を向くか、強く反発しました。現在の4年生の一昨年(2年生の4月)の状況です。反抗的な生徒、教室に居られず出てしまう生徒、悩みを抱えイラつく生徒、深刻な課題を抱えていました。

現在(4年生の9月)、彼らの状況は一変しました。「ここまでよく成長したものだ」と感心しています。授業は平穏であり、勝手な行動をとる者はいません。各行事や集会での自然な行動(集合状況、服装等)は下級生の手本となります。授業や進路、部活動等での会話は自然であり、お互いに身構えるようなことはなくなりしました。4年生、19歳の落ち着きを感じる今日この頃です。

彼らにとって大きかったことは、4年間の時間的なゆとりです。教員が生徒とじっくり向き合い、時間をかけて少しずつ進むことで、さまざまなことを理解したのではないかと思います。あらゆる場面で一人一人を大切にしている指導、個に応じた指導がしっかり浸透していった結果です。間人分校は、決して急ぐことはしません。自立と自律を目標に「ゆっくり&しっかり」と生徒の成長を応援します。

### 「相談体制の充実と就労支援」

保健部長・特別支援教育コーディネーター 藤原典子

コミュニケーションの苦手な生徒が少なくありません。集団に入れない、落ち着きがなく集中が続かない、その場にそぐわない言動をしてしまう、勉強がわかりづらい、感情のコントロールがうまくできない、整理整頓が苦手、忘れ物が多い、人との会話が苦手であるなど、ちょっとしたことでつまずくのです。こうした一人一人の「困り」に対し、学校はスクールカウンセラーやさまざまな相談機関と連携しながら、本人・保護者を支援しています。さらに、地域教育支援センターや行政機関・ハローワーク等との連携により福祉的就労につなげることもあります。

就労先では、自然なコミュニケーションと協調が求められます。「おはようございます。ありがとうございます。すみません。」は最低限のマナーであり、「報告・連絡・相談」は欠かしてはならない基本行動です。学校では、社会性を身につけさせるためソーシャルスキルトレーニングも実施しています。

高校4年間の中で自分の特性や長所をとらえ、少しずつ課題解決力を向上させ、自信を持って社会生活を送るための「自立力」を身につけてほしいと願っています。

### 「生徒を受容し、寄り添う支援」

4年担任・保健体育科 吉岡知徳

成功体験が少なく、周りに認められることがなかった生徒は自己肯定感が低く、中には家族とも話そうとせず、孤独を感じている生徒もいます。私は、まずはありのままの存在を認め、サインを見逃さないことが大切だと考えています。教師がいい加減な対応をしていたら、生徒は本当に困った時に頼ってこないし、指導を聞き入れようとはしません。誠実に生徒と向き合い、その生徒の家庭環境にも配慮しながら、本音で話すことをしなければ、お互いの信頼関係は築けないと思っています。

自己肯定感の低い生徒は、自分から踏み出すことに消極的です。従って、時間をかけ、少しずつレベルアップを図る、スモールステップの指導が重要です。それも、一方通行ではなく、生徒に寄り添った支援でなければならぬと考えます。一つ一つ成功体験を積み上げ自己肯定感を高めること、それが自信となり、真の意味での生きる力になるのだと確信します。

### 「保護者との連携」

2年担任・商業科 梅本秀敏

生徒と接する中で、一人一人が違った課題や悩みを持っており、それぞれに適切に対応することはとても難しいことだと思います。だからこそ保護者との連携が、何より重要だと考えています。

保護者と連携をとるためには来校していただくか、家庭訪問をさせてもらい直接お会いするのが良いことは言うまでもありませんが、お仕事や家の用事で忙しくされている方も多く、なかなか実現ができないのが現状です。相手のスケジュールを考慮しながら電話をかけ、都合がつけば休日であっても家庭訪問するなどしています。

私は経験が少なく未熟な部分も多いですが、保護者の想いや考えを受け止めながら、生徒に寄り添った指導を大切にしていこうと考えています。

### 「教育環境の整備」

技術職員 中田邦雄

学校においては、第一に生徒と教職員の安心と安全な環境の維持・整備が大切であると認識し、職務の遂行に努めています。間人分校は小規模校ですが、さまざまな生徒がいます。そのような中で、日々の教育活動を円滑に実施し、事故やトラブルを生じないようにするためには、日常の心がけが大切です。技術職員の仕事は目につけにくいかもしれませんが、自分自身の仕事に納得ができ、達成感が持てるよう今後も職務に専念し、間人分校の教育活動を支えていきたいと考えています。

### 「体験活動と教職員研修の充実」

副校長 木村嘉宏

間人分校では、生徒がさまざまな出会いや体験をし、社会に向かって踏み出していけるよう地域の人材を活用した体験的な教育活動を取り入れています。

- ◎6月1日、8日、20日 茶道体験(講師:裏千家淡交会准教授中江晶子氏)
- ◎6月11日、26日、7月3日 短歌講座(講師:水野孝典氏、斎藤佳子氏)
- ◎7月17日~19日 インターンシップ(京丹後市内10事業所の協力による。)
- ◎9月5日 自己PR力向上講座(講師:FMたんご 宮川優氏)

※この他にも、進路講話(卒業生、市内の社会人による講演)、アコースティックコンサートを計画中  
また、教員集団のチームとしての力量を高めるため、積極的な教職員研修を実施しています。

- 1 京都府総合教育センター出前講座①「障害の理解と支援の基本について」
- 2 京都府総合教育センター出前講座②「授業における支援と評価について」
- 3 先進校視察
  - ア 7月30日 香川県立丸亀高等学校 徳島県立みなと高等学園
  - イ 8月6日 広島県立芦品まなび学園高等学校
  - ウ 8月7日 広島県立福山北特別支援学校 広島県立沼隈特別支援学校
  - エ 8月23日 札幌市立札幌大通高等学校
- 4 スクールカウンセラー研修「事例研究とソーシャルスキルトレーニング」
- 5 サポートステーション研修「若者の社会的・職業的自立について考える」

今後も御支援・御指導よろしく願いいたします。

京都府立網野高等学校間人分校 (〒627-0201 京丹後市丹後町間人 337/TEL & FAX 0772-75-0142)